(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社 フォースコーポレーション
事業所名	グループホーム ゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613番地1
自己評価作成日	平成21年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が理念と行動目標に添って生き生きと明るく働いている。利用者との馴染みの関係が出来ており安心感を持って生活されている。地域の環境も良く、お宮があったり、保育所との交流、適度な散歩が出来たりと恵まれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後6年を経過しているが、こまめに健康状態を確認し、少しの異変でも医療関係者に相談するなど、健康に対する丁寧な見守りにより利用者の健康を維持している。利用者の入れ替わりはほとんどなく、管理者や職員の努力が感じられる。また、早めの対応には利用者や関係者との堅固な信頼関係が必要であり、その構築に日々努めているホームの姿勢もうかがえる。ホームの、地域に対する熱心な関わりが功を奏し、納涼祭等を通じて近隣住民とともに季節を楽しむなど、地域活性の核ともなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ゆうなぎ
(ユニット名)	(南 棟)
記入者(管理者)	
氏名	緒方 久美子
評価完了日	H21 年 7 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念・行動目標を作っており毎朝の朝礼で復唱している。また、職員会議やカンファレンスで話し合ったり、各所に掲示している。</p> <p>(外部評価) 管理者は「笑顔で穏やかな暮らし」の理念をケアの基本とし、理念の実践のために具体的な行動目標を職員と共に作成している。普遍的な理念であるため、具体的な行動目標については利用者の状態やホームの状況等に合わせて都度見直しを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩や外出時に挨拶したり、自治会に入っており地域の行事（運動会、掃除、お神楽等）に参加している。保育所との交流（運動会、お祭り、誕生会）や、地域のいきいきサロンとの交流を行っている。</p> <p>(外部評価) ホームの行事が地域全体のイベントの一つとして位置づけられるなど、ホームが地域活性の一つの核になり、地域と一体化した運営がなされていることがうかがえる。管理者は、行事を行う時はその準備等も地域と関わる重要な時間として大切にしており、地域と協働していくという意識が高い。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人々に呼びかけ認知症講演会を開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の推進会議を行い施設の状況を説明したり意見交換を行い、職員会議等で報告しサービス向上につなげている。	
			(外部評価) 管理者の雰囲気づくりの上手さが運営推進会議を有用なものにしており、参加者が自由に発言できる和やかな雰囲気であることが会議録からもうかがえる。参加者から出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議やGH連絡会に参加してもらい事業所の実情を伝えている。相談・連絡等はその都度行っている。	
			(外部評価) 町主催で町内の5ホームが連絡会をもっており、担当者も積極的に各ホームに関与している。目配りが十分にできる保険圏域も幸いし、行政や社協等との協力体制が確立されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) マニュアルを作成している。研修会や勉強会を行い拘束をしない取り組みを行っている。玄関は施錠しない為利用者を見ながらさりげなく声掛け、見守りしている。	
			(外部評価) ホームの構造から玄関口への目配りが難しく、裏口等からの出入りも可能なので、利用者がふらりと外出すると把握が難しい状況にあるが、見守りが重要という考えのもと施錠は行わず、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し勉強した事を職員会議やミーティングで話し合い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要とされる利用者がある場合は管理者が随時対応している。職員にも説明し情報を共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に管理者が十分な説明を行い、同意を得ている。介護報酬改定の際は、各家族に説明を行い同意を得るようにしている。看取りについても十分な説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の要望はその都度話し合い解決するようにしている。意見箱を設置し来所持投函してもらうように毎月のお便りに同封している。家族会を年2回開催し意見や要望を聞くようにしている。また、面会時に職員が話を聞き出された意見や要望を取り入れるように努めている。 (外部評価) 家族からの意見を聞き取るため、意見箱の設置や家族会の開催など様々な取り組みを行っており、管理者は明るく丁寧に接することで、家族が意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。家族の来訪時には各ユニット長が積極的に声をかけ、意見や要望を聞いている。	ホームで行事を行う時には家族にも役割をお願いし、家族をお客様としてもてなす時とは異なる視点で話を聞き出すことで協働を図る等の取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者はなるべく現場に入り職員の声を聞くようにしている。アンケートをとったり職員会議やカンファレンス等で話し合い意見を反映している。 (外部評価) 管理者は、利用者に質の高いケアを提供するためには、職員が楽しんで仕事ができる環境が必要であると考えており、極力現場に出て職員それぞれと話し合いを行っている。ユニット長も同様に職員との話し合いをもっており、新人職員からも意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 希望休を取り入れたり休憩時間や場所も確保している。給与においては、出来る範囲で時間外手当を出している。職員全体で自由に話が出来る様に食事会を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修の情報を収集しなるべく多くの職員が受講できるように配慮している。費用も出している。研修報告は毎月の職員会議で発表し全員が閲覧出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は毎月1回のGH連絡会を開催し意見交換や勉強会を行っている。職員同士での意見交換や勉強会を行い日々のケアに活かしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に自宅面談に行き本人の情報を細かく聞き取り本人の思いを聞いている。情報を職員に報告し入所後不安なく生活できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に自宅面談に行き本人の情報を細かく聞き取り今までの家族の介護の思いを聞いている。情報を職員に報告し入所後不安なく生活できるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今まで本人が受けていた馴染みのサービスが持続出来る様に努めている。(併設のデイサービスを利用する)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として敬い常に学んでいく事を忘れないと言う行動目標に添ってお互いが共同しながら穏やかな生活が出来る様に支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回のお便りを発行し生活状況を伝えたり、面会時にも一緒に食事やお茶を飲んでもらい日頃の状態を細かく伝えるようにしている。家族と自由に過ごせる時間が持てるように心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所者によっては親戚や知人が来訪し食堂や居室でゆっくり過ごしてもらっている。 (外部評価) ホームの近隣に居住していた人も少なくないため、地域の行事に参加する際には馴染みの人等との関係が継続するように支援している。また、職員が地元に着した言葉で利用者に話しかけており、地域との関係を維持した取り組みがうかがえる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入所者同士の馴染みの関係が出来ており、食堂やベンチで話しをしたり居室を自由に行き来されている。お茶や食事の時間を一緒に過ごし多くの会話を持つようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて家族と連絡をしながら対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で一人一人の表情や態度から本人の思いを知ろうと努めている。レクの参加や手伝い等は本人の意思を尊重している。 (外部評価) 職員は、深く利用者の思いを把握するため生活歴の聞き取りに力を入れており、生活歴は介護記録等で確認し合い、共有化を図っている。	利用者の生活歴等の情報は貴重な財産であり、管理者を含め職員全員での共有化が必要と考えられるため、職務中でも簡単に記録できるよう工夫された統一用紙に記録していく等の工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みの物を持って来てもらったり、入所前には、自宅面談に行き情報収集している。入所後も本人や家族から情報を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の行動や動作の記録をとり、生活のリズムを把握するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護認定の更新の時は、本人や家族の希望を聞きながら介護計画を作成している。職員全員で3ヶ月に1回のカンファレンスを行い意見交換をして介護計画の見直しをしている。 (外部評価) 介護計画は3か月ごとの定期に見直し、家族にも関わってもらうよう取り組んでいる。管理者は、介護計画と介護記録用紙の記載内容が関連付けられるシートの作成を検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを用意し食事・水分・排泄・バイタル等身体的状況、毎日の暮らしの生活の様子や本人の言葉、エピソード等を記録し全職員が確認するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 推進委員である区長や民生委員と意見交換をする機会を設けている。また地域のサロンとの交流も開いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関との連携は密にとっているが、本人や家 族の希望に応じて柔軟に対応している。	
			(外部評価) ホームの協力医が利用者全員の状態を把握しており、 専門的な診療科は必要に応じて受診している。ホーム の協力医とそれぞれの専門科との連携は管理者が担っ ており、利用者の受診に管理者が付き添うことで情報 の行き違いがないように調整し、家族にも報告してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師との連携を図り毎週1回健康観察 を行っている。入所者の身体状況を報告し適切な医療 につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は、情報を提供し職員が頻繁に見舞いに 行き、状態を把握している。また必要に応じて病院関 係者との連携を密にとっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に施設の方針を説明して同意を得ている。また 入所者の状態に応じて本人、家族、医師、職員が連携 をとり重度化や終末期を支えていけるように話し合い 取り組んでいる。	
			(外部評価) 医療連携体制加算を申請したことを機に、家族と終末 期の対応についても話し合いを行っている。状態は落 ち着いているが、家族からの希望で医療機関の協力の もと看取りを実践している。職員とも対応について話 し合いを重ねているが、管理者や職員には心の揺れが あることも感じられる。	看取りの実践を重ねているホームから話を聞くことで 経験から学ぶなど職員の研修を重ねて実践に備え、ま た「看取り」の方針や基本理念をしっかりと見つけた 話し合いを継続することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員が定期的に救命救急を受講している。緊急時対応マニュアルを作成・掲示し周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に事業所の避難訓練を実施している。消防団、消防署、地域住民との訓練も行い協力体制を築いている。 (外部評価) ホームの避難訓練は地域とともに行っており、消防団員にも利用者を紹介するなど協力体制を築いている。一方、地域には古い木造民家が多く、災害時には被災する家も少なくないと思われるため、地域と共にという理念から、地域貢献も災害対策に組み込む必要性が感じられる。	地域に馴染んでいるホームであるため、非常災害時等には地域に居住する災害弱者等の緊急避難場所として貢献することも検討する必要があると思われる。ハード面はもとより、職員のスキルも含め、地域と双方向での協力体制を築いていけるよう取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会議やカンファレンスにおいて入所者の誇りやプライドを傷つけない言葉掛けや対応について話し合い実施している。 (外部評価) 職員は、利用者それぞれの個性に合わせた声かけを行っている。ちょっとした行き違いで気分を害した利用者にも個別に時間をかけて説明し、自分が尊重されているという安心感を感じ取ることができた利用者が笑顔に戻った場面を見ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望が言いやすいような雰囲気を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは決まっているが一人一人のペースを大切にしその日の状態や思いに配慮しながら本人の希望に添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望により理美容を利用している方もいるが自己決定しにくい方には職員と一緒に考えその人らしさを保てるように施設内で行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日には本人の希望を聞いて好きな物を食べてもらったり、月1回の外食も好きな物を食べてもらっている。出来る人は食事の準備や片付けを手伝ってもらっている。 (外部評価) 「食べることは楽しみ」との思いから、食事制限がある利用者にも医師等と相談しながら「好きなものを楽しく食べてもらう」をモットーとして支援している。新鮮な野菜や果物が食卓にのぼり、食欲をそそられる。後片付けも可能な利用者が行っており、職員と雑談しながら皿洗いをすることは日常の自然な光景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の健康状態に合わせた食事（とろみ、刻み、ミキサー食、減塩食、減糖食）の提供を行っている。水分量や食事摂取量を個別に記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを行い個々に応じた支援をしている。夜は入所者に応じて義歯を外してもらっている。ポリデントで洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人に合った排泄のパターンを把握し、声掛けや誘導をしている。日中はトイレでの排泄を促し夜間帯は必要に応じてオムツやポータブルトイレを使用している。	
			(外部評価) 利用者の排泄の自立度には差があるが、それぞれの状態に合わせた排泄ケアを行っている。自立度の高い方には目くばせや声かけで対応し、配慮の必要な方には排泄チェック表を基に適切な誘導や介護を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の人は主治医に相談し薬を処方してもらっているが、なるべく自然排便が出来る様に乳酸菌、食物繊維等を摂ってもらっている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後からの入浴にしているが、一人一人の希望や健康状態に合わせて入浴してもらっている。	
			(外部評価) 入浴前の健康状態の確認により制限する場合もあるが、基本的には利用者の希望に添うよう努めている。広い浴室であるため、冬場は事前に暖房するなど配慮している。職員は、入浴ケアは利用者と1対1で雑談できる貴重な時間であるとの意識があり、利用者も楽しめる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転にならないように日中の活動を促し生活リズムを整え夜間気持ちよく眠れるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の薬の処方箋があり用途や副作用を理解している。症状の変化があった場合は主治医と連携を図って相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に応じた手伝いや趣味（野菜づくり、料理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、縫い物、編み物、包丁砥ぎ、ドライブ、買い物等）を活かしながら日々を過ごしてもらうよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節や行事等においては外出の機会を多く作るようにしている。また家族の協力を得て外出をされている方もいる。	
			(外部評価) 木立の緑を眺められる庭で、気軽に外気浴が楽しめる。隣接している保育園の園庭への散歩も利用者の楽しみになっている。ホームの前に急な坂道があるため、外出には車が必要であるが、家族の協力も得ながら月に1回は買い物等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお金を管理できる方は自分で所持され、買い物時は自分で支払いしてもらっている。殆どの方は家族と相談しホームで管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来る方は電話をしたり手紙のやり取りをされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関先や共有部分には花を植えたり、花を生けたり、廊下には装飾をしたり入所者の作品や写真を掲示している。部屋に花や観葉植物を置いて世話をしておられる方もいる。</p> <p>(外部評価) ホームが学校の宿舎だったこともあり、全体の造りがゆったりとしている。長い廊下の各所にソファが置かれ、利用者の居場所となっている。特に北側の廊下は保育園の園庭が一望でき、心和む場所となっている。また、長い廊下は雨の日の散歩道としても活用されており、既存の機能を有効に活用しようという工夫がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関や廊下に椅子やベンチを置いて入所者同士や家族、職員がいつでも気軽に話が出来る様に工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自分の馴染みの家具を持ち込まれている方もいる。居心地良く過ごしてもらえるように本人、家族の写真や作品を飾って工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者の居室は10帖という余裕のある空間で、家具の持ち込みは利用者により異なっているが、家族の写真やイベントでの写真なども部屋を華やかにしており、それぞれ個性のある部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 身体状況に合わせてベッドやポータブルトイレの位置を検討している。各自に応じて老人車や歩行器、車椅子、杖を使用してもらっている。階段や廊下、トイレ、浴室に手すりをつけたり段差をなくし安全確保に努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社 フォースコーポレーション
事業所名	グループホーム ゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613番地1
自己評価作成日	平成21年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が理念と行動目標に添って生き生きと明るく働いている。利用者との馴染みの関係が出来ており安心感を持って生活されている。地域の環境も良く、お宮があったり、保育所との交流、適度な散歩が出来たりと恵まれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後6年を経過しているが、こまめに健康状態を確認し、少しの異変でも医療関係者に相談するなど、健康に対する丁寧な見守りにより利用者の健康を維持している。利用者の入れ替わりはほとんどなく、管理者や職員の努力が感じられる。また、早めの対応には利用者や関係者との堅固な信頼関係が必要であり、その構築に日々努めているホームの姿勢もうかがえる。ホームの、地域に対する熱心な関わりが功を奏し、納涼祭等を通じて近隣住民とともに季節を楽しむなど、地域活性の核ともなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) (北 棟)

記入者(管理者)
氏名 緒方 久美子

評価完了日 H21 年 7 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念・行動目標を作っており毎朝の朝礼で復唱している。また、職員会議やカンファレンスで話し合ったり、各所に掲示している。</p> <p>(外部評価) 管理者は「笑顔で穏やかな暮らし」の理念をケアの基本とし、理念の実践のために具体的な行動目標を職員と共に作成している。普遍的な理念であるため、具体的な行動目標については利用者の状態やホームの状況等に合わせて都度見直しを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩や外出時に挨拶したり、自治会に入っており地域の行事（運動会、掃除、お神楽等）に参加している。保育所との交流（運動会、お祭り、誕生会）や、地域のいきいきサロンとの交流を行っている。</p> <p>(外部評価) ホームの行事が地域全体のイベントの一つとして位置づけられるなど、ホームが地域活性の一つの核になり、地域と一体化した運営がなされていることがうかがえる。管理者は、行事を行う時はその準備等も地域と関わる重要な時間として大切にしており、地域と協働していくという意識が高い。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人々に呼びかけ認知症講演会を開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の推進会議を行い施設の状況を説明したり意見交換を行い、職員会議等で報告しサービス向上につなげている。	
			(外部評価) 管理者の雰囲気づくりの上手さが運営推進会議を有用なものにしており、参加者が自由に発言できる和やかな雰囲気であることが会議録からもうかがえる。参加者から出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議やGH連絡会に参加してもらい事業所の実情を伝えている。相談・連絡等はその都度行っている。	
			(外部評価) 町主催で町内の5ホームが連絡会をもっており、担当者も積極的に各ホームに関与している。目配りが十分にできる保険圏域も幸いし、行政や社協等との協力体制が確立されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) マニュアルを作成している。研修会や勉強会を行い拘束をしない取り組みを行っている。玄関は施錠しない為利用者を見ながらさりげなく声掛け、見守りしている。	
			(外部評価) ホームの構造から玄関口への目配りが難しく、裏口等からの出入りも可能なので、利用者がふらりと外出すると把握が難しい状況にあるが、見守りが重要という考えのもと施錠は行わず、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し勉強した事を職員会議やミーティングで話し合い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要とされる利用者がある場合は管理者が随時対応している。職員にも説明し情報を共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に管理者が十分な説明を行い、同意を得ている。介護報酬改定の際は、各家族に説明を行い同意を得るようにしている。看取りについても十分な説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の要望はその都度話し合い解決するようにしている。意見箱を設置し来所持投函してもらうように毎月のお便りに同封している。家族会を年2回開催し意見や要望を聞くようにしている。また、面会時に職員が話を聞き出された意見や要望を取り入れるように努めている。 (外部評価) 家族からの意見を聞き取るため、意見箱の設置や家族会の開催など様々な取り組みを行っており、管理者は明るく丁寧に接することで、家族が意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。家族の来訪時には各ユニット長が積極的に声をかけ、意見や要望を聞いている。	ホームで行事を行う時には家族にも役割をお願いし、家族をお客様としてもてなす時とは異なる視点で話を聞き出すことで協働を図る等の取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者はなるべく現場に入り職員の声を聞くようにしている。アンケートをとったり職員会議やカンファレンス等で話し合い意見を反映している。 (外部評価) 管理者は、利用者に質の高いケアを提供するためには、職員が楽しんで仕事ができる環境が必要であると考えており、極力現場に出て職員それぞれと話し合いを行っている。ユニット長も同様に職員との話し合いをもっており、新人職員からも意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 希望休を取り入れたり休憩時間や場所も確保している。給与においては、出来る範囲で時間外手当を出している。職員全体で自由に話が出来る様に食事会を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修の情報を収集しなるべく多くの職員が受講できるように配慮している。費用も出している。研修報告は毎月の職員会議で発表し全員が閲覧出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は毎月1回のGH連絡会を開催し意見交換や勉強会を行っている。職員同士での意見交換や勉強会を行い日々のケアに活かしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に自宅面談に行き本人の情報を細かく聞き取り本人の思いを聞いている。情報を職員に報告し入所後不安なく生活できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に自宅面談に行き本人の情報を細かく聞き取り今までの家族の介護の思いを聞いている。情報を職員に報告し入所後不安なく生活できるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今まで本人が受けていた馴染みのサービスが持続出来る様に努めている。(併設のデイサービスを利用する)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として敬い常に学んでいく事を忘れないと言う行動目標に添ってお互いが共同しながら穏やかな生活出来る様に支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回のお便りを発行し生活状況を伝えたり、面会時にも一緒に食事やお茶を飲んでもらい日頃の状態を細かく伝えるようにしている。家族と自由に過ごせる時間が持てるように心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 入所者によっては親戚や知人が来訪し食堂や居室でゆっくり過ごしてもらっている。 (外部評価) ホームの近隣に居住していた人も少なくないため、地域の行事に参加する際には馴染みの人等との関係が継続するように支援している。また、職員が地元に着した言葉で利用者に話しかけており、地域との関係を維持した取り組みがうかがえる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入所者同士の馴染みの関係が出来ており、食堂やベンチで話しをしたり居室を自由に行き来されている。お茶や食事の時間を一緒に過ごし多くの会話を持つようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて家族と連絡をしながら対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で一人一人の表情や態度から本人の思いを知ろうと努めている。レクの参加や手伝い等は本人の意思を尊重している。 (外部評価) 職員は、深く利用者の思いを把握するため生活歴の聞き取りに力を入れており、生活歴は介護記録等で確認し合い、共有化を図っている。	利用者の生活歴等の情報は貴重な財産であり、管理者を含め職員全員での共有化が必要と考えられるため、職務中でも簡単に記録できるよう工夫された統一用紙に記録していく等の工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みの物を持って来てもらったり、入所前には、自宅面談に行き情報収集している。入所後も本人や家族から情報を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の行動や動作の記録をとり、生活のリズムを把握するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護認定の更新の時は、本人や家族の希望を聞きながら介護計画を作成している。職員全員で3ヶ月に1回のカンファレンスを行い意見交換をして介護計画の見直しをしている。 (外部評価) 介護計画は3か月ごとの定期に見直し、家族にも関わってもらうよう取り組んでいる。管理者は、介護計画と介護記録用紙の記載内容が関連付けられるシートの作成を検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを用意し食事・水分・排泄・バイタル等身体的状況、毎日の暮らしの生活の様子や本人の言葉、エピソード等を記録し全職員が確認するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 推進委員である区長や民生委員と意見交換をする機会を設けている。また地域のサロンとの交流も開いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関との連携は密にとっているが、本人や家 族の希望に応じて柔軟に対応している。</p> <p>(外部評価) ホームの協力医が利用者全員の状態を把握しており、 専門的な診療科は必要に応じて受診している。ホーム の協力医とそれぞれの専門科との連携は管理者が担っ ており、利用者の受診に管理者が付き添うことで情報 の行き違いがないように調整し、家族にも報告してい る。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 協力医療機関の看護師との連携を図り毎週1回健康観察 を行っている。入所者の身体状況を報告し適切な医療 につなげている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した場合は、情報を提供し職員が頻繁に見舞いに 行き、状態を把握している。また必要に応じて病院関 係者との連携を密にとっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時に施設の方針を説明して同意を得ている。また 入所者の状態に応じて本人、家族、医師、職員が連携 をとり重度化や終末期を支えていけるように話し合い 取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 医療連携体制加算を申請したことを機に、家族と終末 期の対応についても話し合いを行っている。状態は落 ち着いているが、家族からの希望で医療機関の協力 のもと看取りを実践している。職員とも対応について話 し合いを重ねているが、管理者や職員には心の揺れが あることも感じられる。</p>	<p>看取りの実践を重ねているホームから話を聞くことで 経験から学ぶなど職員の研修を重ねて実践に備え、ま た「看取り」の方針や基本理念をしっかりと見つけた 話し合いを継続することを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員が定期的に救命救急を受講している。緊急時対応マニュアルを作成・掲示し周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に事業所の避難訓練を実施している。消防団、消防署、地域住民との訓練も行い協力体制を築いている。 (外部評価) ホームの避難訓練は地域とともに行っており、消防団員にも利用者を紹介するなど協力体制を築いている。一方、地域には古い木造民家が多く、災害時には被災する家も少なくないと思われるため、地域と共にという理念から、地域貢献も災害対策に組み込む必要性が感じられる。	地域に馴染んでいるホームであるため、非常災害時等には地域に居住する災害弱者等の緊急避難場所として貢献することも検討する必要があると思われる。ハード面はもとより、職員のスキルも含め、地域と双方向での協力体制を築いていけるよう取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会議やカンファレンスにおいて入所者の誇りやプライドを傷つけない言葉掛けや対応について話し合い実施している。 (外部評価) 職員は、利用者それぞれの個性に合わせた声かけを行っている。ちょっとした行き違いで気分を害した利用者にも個別に時間をかけて説明し、自分が尊重されているという安心感を感じ取ることができた利用者が笑顔に戻った場面を見ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望が言いやすいような雰囲気を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは決まっているが一人一人のペースを大切にしその日の状態や思いに配慮しながら本人の希望に添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望により理美容を利用している方もいるが自己決定しにくい方には職員と一緒に考えその人らしさを保てるように施設内で行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日には本人の希望を聞いて好きな物を食べてもらったり、月1回の外食も好きな物を食べてもらっている。出来る人は食事の準備や片付けを手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 「食べることは楽しみ」との思いから、食事制限がある利用者にも医師等と相談しながら「好きなものを楽しく食べてもらう」をモットーとして支援している。新鮮な野菜や果物が食卓にのぼり、食欲をそそられる。後片付けも可能な利用者が行っており、職員と雑談しながら皿洗いをすることは日常の自然な光景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の健康状態に合わせた食事（とろみ、刻み、ミキサー食、減塩食、減糖食）の提供を行っている。水分量や食事摂取量を個別に記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを行い個々に応じた支援をしている。夜は入所者に応じて義歯を外してもらっている。ポリデントで洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人に合った排泄のパターンを把握し、声掛けや誘導をしている。日中はトイレでの排泄を促し夜間帯は必要に応じてオムツやポータブルトイレを使用している。	
			(外部評価) 利用者の排泄の自立度には差があるが、それぞれの状態に合わせた排泄ケアを行っている。自立度の高い方には目くばせや声かけで対応し、配慮の必要な方には排泄チェック表を基に適切な誘導や介護を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の人は主治医に相談し薬を処方してもらっているが、なるべく自然排便が出来る様に乳酸菌、食物繊維等を摂ってもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後からの入浴にしているが、一人一人の希望や健康状態に合わせて入浴してもらっている。	
			(外部評価) 入浴前の健康状態の確認により制限する場合もあるが、基本的には利用者の希望に添うよう努めている。広い浴室であるため、冬場は事前に暖房するなど配慮している。職員は、入浴ケアは利用者との1対1で雑談できる貴重な時間であるとの意識があり、利用者も楽しめる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転にならないように日中の活動を促し生活リズムを整え夜間気持ちよく眠れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の薬の処方箋があり用途や副作用を理解している。症状の変化があった場合は主治医と連携を図って相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に応じた手伝いや趣味（野菜づくり、料理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、縫い物、編み物、包丁砥ぎ、ドライブ、買い物等）を活かしながら日々を過ごしてもらうよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節や行事等においては外出の機会を多く作るようにしている。また家族の協力を得て外出をされている方もいる。 (外部評価) 木立の緑を眺められる庭で、気軽に外気浴が楽しめる。隣接している保育園の園庭への散歩も利用者の楽しみになっている。ホームの前に急な坂道があるため、外出には車が必要であるが、家族の協力も得ながら月に1回は買い物等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお金を管理できる方は自分で所持され、買い物時は自分で支払いしてもらっている。殆どの方は家族と相談しホームで管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来る方は電話をしたり手紙のやり取りをされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関先や共有部分には花を植えたり、花を生けたり、廊下には装飾をしたり入所者の作品や写真を掲示している。部屋に花や観葉植物を置いて世話をしておられる方もいる。</p> <p>(外部評価) ホームが学校の宿舎だったこともあり、全体の造りがゆったりとしている。長い廊下の各所にソファが置かれ、利用者の居場所となっている。特に北側の廊下は保育園の園庭が一望でき、心和む場所となっている。また、長い廊下は雨の日の散歩道としても活用されており、既存の機能を有効に活用しようという工夫がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関や廊下に椅子やベンチを置いて入所者同士や家族、職員がいつでも気軽に話ができる様に工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自分の馴染みの家具を持ち込まれている方もいる。居心地良く過ごしてもらえるように本人、家族の写真や作品を飾って工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者の居室は10帖という余裕のある空間で、家具の持ち込みは利用者により異なっているが、家族の写真やイベントでの写真なども部屋を華やかにしており、それぞれ個性のある部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 身体状況に合わせてベッドやポータブルトイレの位置を検討している。各自に応じて老人車や歩行器、車椅子、杖を使用してもらっている。階段や廊下、トイレ、浴室に手すりをつけたり段差をなくし安全確保に努めている。</p>	